短 報 Short Communication

日鳥学誌 36: 65-67, 1987

知床半島沿岸におけるヒメクビワカモメの観察

中 川 元

1984年1月26日から1月29日までの間、オホーツク海に面した北海道斜里町の知床半島沿岸で、ヒメクビワカモメ *Larus roseus* の群れを観察した。本種は1974年1月15日に同じ斜里町の海岸で観察されており(森 1976)、わが国への渡来は今回が2度目である。海水の存在が本種の渡来に深く関連していると考えられたため、その状況を報告する。

1月26日12時20分から13時の間、斜里前浜で32羽のヒメクビワカモメを観察した。うち24羽は冬羽の成鳥で、8羽は背にWのパターンを持つ第1回冬羽の幼鳥であった。成鳥のなかには腹部がピンク色を帯びている個体があった。当日は流水帯が沖合い2kmの所まで近付いていた。流水帯と海岸との間の水面は、砕け氷や小氷板が波にもまれて漂っている状態で、波打ち際には板氷が多数打ち上げられていた。ヒメクビワカモメは、波打ち際から10-20m付近の海上でホバリングや帆翔を交え、時折水面に降り採餌していた。水面では体を浮かして波に漂い、再び飛び立つ行動を繰り返していた。海に飛び込んだり潜水したりする行動(DIVOKY 1976, GRANT 1982)は見られなかった。10分ほど採餌と飛翔を繰り返すと、群れはいっせいに200mほど海岸に沿って移動し、同様の行動を繰り返しながら東へ移動していった。同時に、筆者の観察場所から600m西の斜里港へ向かった森信也氏は、12時50分から13時30分の間、67羽のヒメクビワカモメを観察している。この日の斜里海岸には100羽前後の群れが渡来していたと考えられる。

翌1月27日には、斜里前浜には流水が着岸しており、斜里港内にも流水が進入していた。海上と港内には開放水面がなく、ヒメクビワカモメの姿は見られなかった。この日、斜里前浜から16km東の知布泊海岸で27羽のヒメクビワカモメが佐藤正悟氏により観察された。知布泊海岸ではまだ流水の着岸はみられなかった。

1月28日、13時に知布泊海岸の沖合いを東に向かって飛ぶヒメクビワカモメの成鳥5羽、幼鳥1羽を観察、続いて吹雪の中を東に向かって飛ぶヒメクビワカモメの小群を観察した。そのなかには一時水面に降りるものもあった。この日の知布泊海岸は、岸から300m沖までが、砕け氷と小氷板とが密接して海面を覆っており、その沖には開放水面が広がっていた。ヒメクビワカモメは沿岸の氷域と沖の開放水面との境界付近に観察された。

1月29日は知布泊海岸から東に13km離れたオシンコシン海岸で、500mほど沖合いを飛ぶヒメクビワカモメが5羽観察された。この日知布泊海岸から西側の海上は沖合いまで流水に覆われていた。知布泊・オシンコシン間の海岸では岸から500mの幅で小氷板が水面を覆っていたものの、その沖には開放水面があった。ヒメクビワカモメは前日と同様に、海水域と開放水面の境界付近に観察された。

1月30日は流水の着岸が知床半島斜里町側の全域におよび、この日以降、ヒメクビワカモメは観察されなかった。

非繁殖期のヒメクビワカモメは、北極海では水下のファウナを餌としており、流水の周縁部に見られる(DIVOKY 1976)。また、アラスカ北部のBarrowでは、ヒメクビワカモメの秋の渡来が海水の量

Fig. 1. A flock of Ross's Gulls observed on the Shari coast, Hokkaido.
Photo by H. NAKAGAWA on 26 January 1984.

Fig. 2. Ross's Gulls at sea with brash ice.

と浮氷間の開放水面の存在に直接関係があり (DENSLEY 1977), ペーリング海では海氷 (棚氷) の前縁部は、密氷域や開放水面よりも海鳥類の密度が高いことが知られている (DIVOKY 1981). 今回、ヒメクビワカモメの群れは、流水帯の前縁部、砕け氷や小板氷の漂う海域に現れ、流水帯が接岸し海が一面の密氷域になると同時に姿を消した. ヒメクビワカモメは、冬季も北極圏に生息し、緯度の低い地域に南下することは稀である. しかし、今回の記録は海氷の存在する海域であれば、北海道のような緯度の低い地域でもヒメクビワカモメが渡来することを示している.

引用文献. DENSLEY, M., 1977. The Ross's Gull (*Rhodostethia rosea*) in Arctic Alaska. *Polar Records* 1977: 603-605. ● DIVOKY, G. J., 1976. The pelagic feeding habits of Ivory and Ross's gulls. *Condor* 78: 85-90. ● ——— 1981. Birds and the ice-edge ecosystem in the Bering Sea. The eastern Bering Sea Shelf, oceanography and resources 2: 799-804. Seattle, University of Washington Press. ● GRANT, P. J., 1982. Gulls: a guide to identification. Calton, T. & A D Poyser. ● 森信也, 1976. 北海道に渡来したヒメクビワカモメ. 鳥 20: 83-84.

An Observation of Ross's Gulls along the Shiretoko Peninsula Coast, Hokkaido. Flocks of Ross's Gulls *Larus roseus* were observed along the coast of Shiretoko Peninsula, eastern Hokkaido, between 26 and 29 January 1984. On January 26, 24 adults and 8 juveniles in first winter plumage were seen at Maehama, Shari. They were hovering, circling, and occasionally surface-feeding at sea 10-20 m off the beach. Sometimes they floated on the water, but did not dive. The flock moved from one place to another after foraging for about 10 minutes. Another flock of 67 Ross's Gulls was observed at the Shari Harbor at the same hour by another observer. Thus at least 100 Ross's Gulls were on the Shari coast on that day. Pack ice situated about 2 km off shore and there were brash ice and small ice cakes on the open water between the pack ice and the shore, the condition which seems to be especially favored by the gulls.

Next day (January 27) the flocks of Ross's Gulls disappeared from the Shari coast as the sea was covered by pack ice and no open water became available. However, several smaller flocks consisting of 5-27 birds were seen along the Shiretoko Peninsula between 27th and 29th. After January 30 the sea was closed by ice and no Ross's Gulls were observed. My observation supports those by DIVOKY (1976, 1981) and DENSLEY (1977) that Ross's Gulls chiefly feed at the edge of pack ice.— Hajime NAKAGAWA.

Shiretoko Museum, Moto-machi, Shari-cho, Shari-gun, Hokkaido 099-41. 北海道斜里町 知床博物館.